

飼料作物病虫害防除指針

目 次

飼料作物改正事項一覧表	2
1 防除法	
(1) イネ科牧草	3
(2) マメ科牧草	3
(3) 飼料用とうもろこし（青刈り・子実）	4
(4) 飼料用とうもろこし（子実）	4
2 掲載農薬一覧	4

飼料作物改正事項一覧表

作物名	病害虫名	改正事項	改正内容
飼料用とうもろこし(子実)	アワヨトウ	防除方法 掲載農薬一覧	トレボン乳剤を新規採用

1 防除方法

(1) イネ科牧草

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
すじ葉枯病・ さび病・雲形病・ 炭そ病・葉腐病 は種期 生育中	[耕種的防除法] 1 マメ科牧草を混播する。 2 肥培管理は適正に行う(窒素肥料に片寄らない) 3 刈取時期が遅れないようにする。	○ 激発した場合は早急に刈り取る。
雪腐病 は種前 は種期	[耕種的防除法] 1 窒素は多用せず、堆肥及びリン酸、加里肥料を十分に施用する。 2 耐病性品種を用いる。 3 適期には種し、越冬前に十分株をつくる。 4 春先の消雪を早め、排水をよくする。	
アワヨトウ 第1回目 6月下旬～7月上旬 第2回目 8月上旬～9月上旬	[薬剤による防除法] スミチオン乳剤を散布する。 [耕種的防除法] 1 牧草の種は春播きを避け、秋播きとする。 2 窒素肥料や堆肥の多量施用を避ける。	○ アワヨトウは老齢になると効果が劣るので早期発見に努め、若齢のうちに防除する。 ○ 大量発生の際は早めに収穫する。
ムギダニ 第1回目 4月上旬～5月中旬 第2回目 10月中旬～11月下旬	[薬剤による防除法] 1 発生密度が高い場合に次の農薬を散布する。 スミチオン乳剤	○ ムギダニの活動が活発な曇天の日や夕方に散布する。 ○ 散布後、2週間以上経過してから放牧、採草を行う。
コガネムシ幼虫 8月～9月	[耕種的防除法] 1 牧草が枯死し、草地の表面が簡単にめくれるなどの被害が見られた場合は、被害箇所をロータリーハローを丁寧にかけて、幼虫密度をなるべく減らした上で草地更新を行う。	○ 3年目幼虫(スジコガネ) 150頭/m ² で剥離が見られ始める。 ○ マメ科牧草も食害を受ける。 ○ 牧草の種期が遅れないように作業する。 ○ ロータリーハローの回数を増やすほど、幼虫数は減少する。

(2) マメ科牧草(クローバ類)

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
菌核病	[耕種的防除法] 1 多発地帯では、春季は種に努める。 2 秋季は種の場合は、根雪前の生育が7葉期以上になるように、9月上旬頃までには種を完了する。	
白絹病・ ウイルス病・ 汚斑病・黒点病 は種期 収穫時	[耕種的防除法] 1 排水のよい所に栽培する。 2 ウイルス病の蔓延を少なくするためには、イネ科牧草との混播が効果的である。 3 適期に刈り取り、過繁茂にならないようにする。また被害茎葉を残さないようにする。	
葉腐病・さび病 生育中	[耕種的防除法] 1 肥培管理は適正に行う。	
ウリハムシモドキ 5月下旬～ 6月下旬	[耕種的防除法] 1 草地のマメ科率が高く、草勢不良な場合特に多発するので過放牧、刈り取り過剰を避け、肥培管理を適切に行う。	
ナメクジ類 5月～7月	[耕種的防除法] 1 刈取回数を増やして乾燥をうながす。	

(3) 飼料用とうもろこし（青刈り・子実）

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
黒穂病 は種前 出穂後	[耕種的防除法] 1 連作を避ける。 2 発病株は速やかに抜き取って処分するか、土中深く埋める。	○ 病原菌は堆肥又は飼料にしても完全に死滅しないので、堆肥や飼料に用いないこと。
すす紋病 ごま葉枯病 は種前	[耕種的防除法] 1 連作を避ける。 2 耐病性品種を栽培する。	
すじ萎縮病 は種前 は種期	[耕種的防除法] 1 前年に発生を認めたと場では作付をしない。 2 媒介昆虫であるヒメトビウンカの成虫発生時期を避けて、5月3～5半旬頃には種する。	○ ヒメトビウンカの水田周辺における第1回成虫発生最盛期は、4月下旬～5月上・中旬である。
ハリガネムシ類 は種前	[耕種的防除法] 1 連作を避ける。 [薬剤による防除] 1 クルーザー F S 30を乾燥種子に塗沫処理する。	○ 牧草跡地で発生しやすい。 ○ キヒゲン（忌避剤）などの粉衣剤を併用する場合は、クルーザー F S 30を先に処理する。
タマナヤガ (ネキリムシ類) 収穫60日前まで	[耕種的防除法] 1 ほ場を適正に管理し雑草を抑える。 [薬剤による防除] 1 ダイアジノン粒剤5を散布する。	
アワノメイガ 雄穂抽出始～ 絹糸抽出期	[薬剤による防除] 1 パダン S G水溶剤を散布する。	○ 農薬散布は、幼虫食入防止を狙い、第1回目は幼虫のよく集まる生長点、第2回目は雌穂にも十分散布する。
タネバエ は種前	[薬剤による防除] 1 クルーザー F S 30を乾燥種子に塗沫処理する。	○ キヒゲン（忌避剤）などの粉衣剤を併用する場合は、クルーザー F S 30を先に処理する。
ツマジロクサヨトウ 発生初期	[薬剤による防除] 1 掲載農薬一覧にある薬剤のいずれかを散布する。	○ 若齢幼虫に対して実用性が確認されている。

(4) 飼料用とうもろこし（子実）

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
アワヨトウ 収穫7日前まで	[薬剤による防除] 1 トレボン乳剤を散布する。	○ 若中齢幼虫に対して実用性が確認されている。

2 掲載農薬一覧（飼料作物）

作物名	農薬名	I R A C コード	有効成分	適用病害虫名							
				タマナヤガ	ムギダニ	アワノメイガ	アワヨトウ	ハリガネムシ類	タネバエ	ツマジロクサヨトウ	
イネ科 牧草	スミチオン乳剤	1B	ME P		○		○				
飼料用とうもろこし (青刈り・子実)	ダイアジノン粒剤5	1B	ダイアジノン	○							
	デルフィン顆粒水和剤	11A	B T (生菌)								○
	チューレックス顆粒水和剤	11A	B T (生菌)								○
	ジャックポット顆粒水和剤	11A	B T (生菌)								○
	パダン S G水溶剤	14	カルタップ				○				○
	クルーザー F S 30	4A	チアメトキサム						○	○	
飼料用とうもろこし (子実)	トレボン乳剤	3A	エトフェンプロックス								○